

2019 年度 愛知国際会議展示場株式会社（AICEC）の取組状況

1. 事業概要

製造業を中心とした世界有数の産業集積、国際空港や高規格道路網など充実した交通インフラを有するといった愛知県の特性を活かし、展示会産業の育成・活性化を通じた内外の多様な交流の促進等を推進することによって、新産業の創出や既存産業の強化などを促進するとともに、国内外からの集客を図り、産業首都愛知の新たな交流・イノベーション拠点の



Aichi Sky Expo

創造を目指して、2019年8月、中部国際空港島内に Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）は開業しました。Aichi Sky Expo は、国内初となる国際空港直結型の展示場であり、国内最大級の展示面積、国内唯一の常設保税展示場、5G（第5世代移動通信システム）通信環境の導入といった特長を持っています。

施設運営についてはコンセッション方式を採用し、GL events SA（フランス企業）と前田建設工業株式会社が2018年1月19日に設立した愛知国際会議展示場株式会社（AICEC）が行っています。構成企業であるGL events SAは、コンベンションセンターの運営や、イベント主催者への総合的なソリューションやサービスの提供を行う世界規模の企業であり、世界中にネットワークを持ち、国際会議場や国際展示場、レセプションおよび多目的施設など、50のイベント施設を運営しています。また、前田建設工業株式会社は、日本におけるコンセッション事業の先駆的企業で、Aichi Sky Expo へアクセスする道路など愛知県の8つの有料道路のコンセッション事業の運営にも取り組んでいます。

Aichi Sky Expo は、こうした運営方式を導入することにより、民間事業者の創意工夫をより強く引き出し、ローコストで高いサービス水準を実現することにつなげ、その結果、県内企業・県民・利用者の利便性向上、運営に当たる民間事業者の収益確保、行政負担の軽減の「三方よし」の実現を図ることとしています。

また、AICEC では、マクロン・フランス大統領が経済・産業・デジタル大臣時代に提唱した大規模国際産業展「グローバルインダストリー」をフランス（パリ・リヨン）で開催しているGL events SA が構成企業であるという利点を活かし、「グローバルインダストリー」日本版の開催支援を行うとともに、愛知県との連携により、国内外から幅広く集客する見本市・展示会等の企画・開催等に向けた取組を進めることなどによって、日本における展示場運営についての新たなモデルを示していきます。さらに、GL events SA のグローバルネットワークを活用し、海外の展示会主催者等に対する誘致活動を行っていくこととしています。

愛知県が進める、中部国際空港やその周辺エリアにおいて、各国との首脳級会合、閣僚級会合

などの重要かつ大規模な国際会議やビジネス・イノベーションを創出する大規模な国際展示会、見本市等が数多く開催される「MICE を核とした国際観光都市」となることを目指した調査研究、加えて、同エリアにおいて、最先端技術を取り込んだ「世界ナンバーワンの国際観光都市」に飛躍させるとともに、最新テクノロジーを活用した未来の都市の新しい空間、時間マネジメントの形を世界に提案する、愛知ならではの「スーパーシティ」の実現を目指した構想の中核を担う拠点の一つとして、AICEC は愛知県との本コンセッション事業を通じて、2019 年度のみならず、2020 年度以降も引き続きその実現に向けて積極的に寄与していきます。

2. 事業報告

(1) 2019 年度の催事開催実績

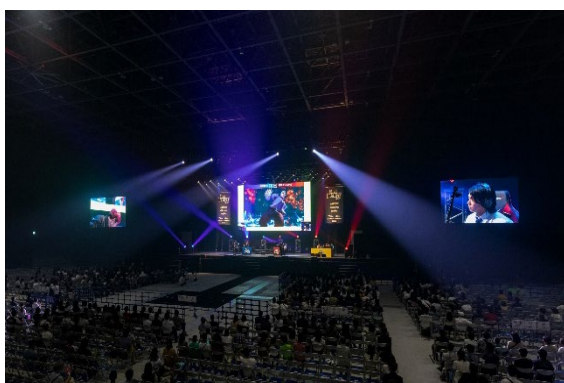
・催事件数

Aichi Sky Expo で、開業（2019 年 8 月 30 日）から 2020 年 3 月末までの期間に催された催事件数は 83 件になります。イベント種別ごとの内訳はコンサートが 7 件、国際会議が 17 件、企業イベントが 14 件、試験が 1 件、BtoC 展示会が 20 件、ゲームイベントが 8 件、握手会が 13 件、スポーツイベントが 2 件、BtoB 商談会が 1 件でした。

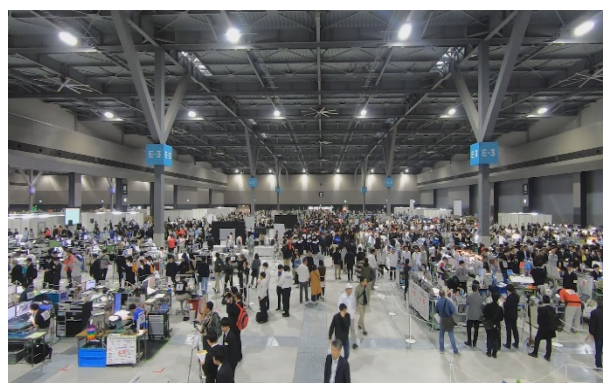
展示会としての利用はもとより、最新の展示場ならではの試験、ゲームイベント、握手会、スポーツイベントなどのように、多岐に亘る形態で利用されております。今後も展示場としての可能性を切り拓いていきます。

・主要な催事

開催年月	イベント名	来場者数
2019年8月	AICHI IMPACT! 2019（展示場のオープニングイベント）	34,160
2019年9月	Wired Music Festival '19	18,000
2019年11月	名古屋キャンピングカーフェア 2019 Autumn	21,078
2019年11月	第57回技能五輪全国大会／第39回全国アビリンピック	187,470
2019年12月	FIELDSTYLE JAMBOREE 2019	42,000



AICHI IMPACT!2019



第 57 回技能五輪全国大会

・展示ホール稼働率

展示ホール稼働率は年間を通して24.0%でした。3月の数値が低いのは新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるものです。

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働率 (%)	4.8	31.2	27.6	51.0	15.7	26.9	10.4	0.3	24.0

・来場者数

2019年度の来場者数は総数675,799名でした。月次ベースでは11月が233,445名で最高となりましたが、3月は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で0名でした。

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	15,990	140,320	85,546	233,445	98,648	88,490	13,360	0	675,799

(2) 収支実績

2019年度(2019年8月開業から)の本体事業収入となる展示ホール、会議室、備品等の利用料金合計は651百万円、附帯事業収入となる駐車場の利用料金合計は65百万円、飲食収入合計は14百万円、その他サービスの収入合計は47百万円で、全て合計した営業収益は777百万円でした。

また、本体事業と附帯事業とは別に任意事業における飲食収入合計は1百万円、その他サービスの収入合計も1百万円でした。

一方、本体事業と附帯事業における営業費用の合計は720百万円でした。内訳は、施設維持管理費236百万円、イベント経費95百万円、各種活動費25百万円、一般管理費352百万円、駐車場関連費8百万円、飲食関連費4百万円でした。結果、任意事業を除く2019年度の営業損益は57百万円の黒字でした。

本体事業と附帯事業の推移

(単位：百万円税抜)

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業収益	0	122	132	235	82	101	27	78	777
営業費用	-5	-149	-108	-87	-117	-97	-80	-77	-720
営業損益	-5	-27	24	148	-35	4	-53	1	57

3. 主な取組内容

(1) 統括マネジメント業務

事業計画の策定を始めとした年度計画の管理や、関連するモニタリングの実施が主な業務となります。また、経理業務としては、予算管理や財務諸表の作成、総務業務としては文書管理や台帳管理といった内容になります。さらに、業務間の調整や情報共有、会社関



メインエントランス

係書類の管理、契約関連書類の管理といった業務も含まれます。

また、セルフモニタリング業務を総括し、年度管理計画書を始めとした書類の作成、各業務の提出管理等を行っています。

(2) 施設維持管理運營業務

①マーケティング・プロモーション業務

開業に向けたプロモーションとして、愛知県からの委託を受けて、7月から9月にかけて、主要駅でのキャンペーン活動や鉄道、空港内での広告掲出により幅広く Aichi Sky Expo の周知を図るとともに、展示会主催者やイベントプロモーター向けには、ニューズレターの発信や MICE 専門誌への広告掲載、国内外の業界関係者が集う MICE 見本市や世界最大の展示会産業団体である UFI(国際見本市連盟)等への参加を通じて、本施設の積極的な利用促進に努めました。



IMEX フランクフルト

海外での催事としては、IMEX フランクフルト（世界最大の MICE 見本市）を始め、UFI コングレスバンコク 2019、中国国際輸入博覧会（上海）、IBTM World 2019（MICE 専門見本市・バルセロナ）に参加しています。

また、Aichi Sky Expo の WEB サイトや SNS、PR 動画により、施設の詳細やアクセス、直近の催事開催予定など、常に最新の情報を発信することに加え、MICE 専門誌「Exhibition World」を発行するイギリスの出版社 Mash Media 社や MICE 専門見本市の IBTM CHINA の WEB サイトでのバナー広告を展開しました。

Brand-new Convention and Exhibition Center at the heart of Japan.

Aichi Sky Expo
Aug.30th,2019 Grand Opening.



海外バナー広告

②誘致・営業業務

毎週、活動報告と行動予定の共有、毎月数値の進捗の確認などを行うための会議を開催しました。愛知県や関係機関との連携を密にしながら、情報の収集・共有化に取り組み、空港直結という施設の特色を活かし、また、愛知県の産業集積という特徴を活かし地域の発展に資する催事の誘致に取り組みました。

また、フランスで開催されている e スポーツイベント（レインボーシックス・シージ プロリーグ ファイナル）が、日本で初めて開催されるなど、フランス企業である GL events SA を構成企業に持つ AICEC ならではの催事も誘致しました。

2019 年度は開業初年度であったこと、年度末に新型コロナウイルス感染症の影響があったことなどから、海外からの誘致が十分な結果とはなりませんでしたが、今後も GL events SA のグローバルネットワークを活用し、海外の展示会主催者等による催事を積極的に誘致していきます。

③予約管理・使用許可・料金徴収等業務及び催事開催支援業務

予約管理を正確に行うために、申請書のデータを予約管理システムへ入力し、許可書の発行に至るプロセスを管理できるシステムを導入しました。システムにて利用可能期間を明確に管理できるようになり、公平・平等な利用を図るため、利用可能期間・施設について明確にシステムで確認できるようになっています。また、愛知県国際展示場条例等関係法令を遵守し、本施設の設置目的を踏まえ、公平性を確実に担保して、利用者の決定を行っています。利用許可後は催事開催支援業務として会場利用の効果的な方法について、利用者へ助言する他、備品の貸出を適切に実施するなど主催者の円滑な催事開催を支えています。

④施設維持管理、渋滞対策及び防災・災害対策業務

・施設維持管理業務

建築物維持管理業務、設備保守管理業務、備品等保守管理業務、外構施設保守管理業務、警備業務、衛生管理・清掃業務、総合案内業務を年間業務工程計画表及び各種催事にに基づき実施しました。各業務の適正さについて確認しています。



総合案内

・渋滞対策

中部国際空港（株）・名古屋鉄道（株）・愛知道路コンセッション（株）など、関係交通機関との情報共有・連携により渋滞対策を実施しました。特に、名古屋鉄道（株）による催事開催時の増便・増結等の対応は、主催者、出展者、来場者の来場利便性向上に大きく寄与しました。また、施設周辺においては主催者と連携し、交通誘導員を適切に配置し、渋滞対策に努めました。

・災害対策業務

危機管理マニュアル・緊急対応フロー避難誘導経路図等を作成し、災害への対策を講じています。また、年2回の防災訓練を適切に実施しています。さらに、防災備蓄に関する準備も行い、リスト化の上、適切に管理するとともに、周辺事業者と災害時における物資調達に関する覚書を締結しました。

（3）附帯事業運営業務

①駐車場運営業務

駐車場の利用実績は下表の通りです。

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
駐車台数	1,193	20,625	9,894	13,076	16,743	9,528	1,712	77	72,848

駐車場の運営やそれを含む周辺交通対策については、中部国際空港（株）を始めとする周辺事業者及び所轄警察署と適時情報共有・協議の場を持ち、連携して対応にあたっています。

②飲食・売店等利用者利便施設の運営

催事への来場者に快適にお過ごしいただけるよう、催事開催日にはフードコートや売店、そしてコピーや宅配便発送等のニーズにお応えするビジネスセンターを営業しています。



フードコート

③総合保税地域の機能を活用した展示会支援

開業までに中部国際空港総合保税地域へ加入する手続きを完了し、保税展示の要望があった際の受入体制を整えました。2019年度においては総合保税地域の機能を活用した展示会の実績がありませんでしたが、案内資料の一層の改善・充実を図るなど利用促進に向けた取組を進めました。

(4) 官民連携による需要創造推進業務

官民連携による需要創造推進業務は、地域プロモーション事業、催事開催支援事業（DMC事業）、展示会等企画・開催事業を実施することとしており、いずれも、愛知県とAICECで構成する官民連携組織「Aichi Sky Expo 活性化推進機構」として、実施しました。

また、地域を挙げてAichi Sky Expoの需要創造を図るため、2018年度末に地域の経済団体、大学、交通関係事業者や行政機関などで立ち上げた「Aichi Sky Expo 需要創造会議」を2019年度も開催し、パネルディスカッションや施設見学、参加者によるネットワーキング（交流会）などにより、Aichi Sky Expoを核とした地域活性化について意見交換を行いました。

①地域プロモーション事業

愛知県及びAICECと関連団体等で連携して、訴求効果の高い地域プロモーションについて、検討を進めました。具体的な事業としては、オープニングイベント「AICHI IMPACT!2019」の実行委員会への参画や利用促進補助金の活用による展示場の一層の利用促進を図りました。

国内外で活躍するトップ選手や芸能人プレイヤー等を招いたeスポーツの国際大会とライブエンタテインメントの祭典「AICHI IMPACT!2019」は、約3万5千人の来場者、約17万人の動画配信視聴があり、公式Twitterへのアクセス件数は約640万件を記録しました。

②催事開催支援事業（DMC事業）

催事を企画・開催しようとする事業者等の課題やニーズを把握し、適切な支援内容を愛知県、AICEC、関係団体とで検討を行い、アクセス対策や広告媒体の整備を実施しました。

なお、広告媒体は2020年度から運用しており、催事誘致及び催事開催支援につなげています。

③展示会等企画・開催事業

愛知県とAICECで、愛知県の産業特性を活かした展示会の検討を行いました。その結果を踏まえつつ、新規展示会となる「グローバルインダストリー」日本版の企画・開催のための基礎調査を行いました。

また、2018年3月に締結された「日本国愛知県とGL events SAとの展示会産業振興に関する

る協定」に続き、2019年6月に「愛知県において新たな産業展示会を立ち上げていくためのGL eventsと愛知県との覚書」が締結されています。さらに同月、日仏両政府が発出した日仏協力のロードマップにおいても、「グローバルインダストリー」日本版立上げへの支援が表明されています。それらの動きを踏まえ、AICECとしても、「グローバルインダストリー」日本版の開催に尽力していきます。

そして、そうした取組を行いながら、新たな展示会の具体化につなげていきます。

(5) 任意事業

開業初年度においては展示施設利用者の基本的なニーズに対応することを優先的な目的とし、清掃・廃棄物処理サービス体制の提供や食事の幅広いリクエストに対応するキッチンカーサービスの提供等を推進してきました。任意事業の推進に際しては、本体事業へ悪影響が生じるリスクがないことを確認しながら進めています。

さらに、2020年度以降には、Aichi Sky Expoにおける催事を主催できるよう、着実に準備を進めています。

(6) その他

・新型コロナウイルス感染症対策（2020年度の内容含む）

新型コロナウイルス感染症に対する施設対策としては、サーモ式検温器の設置を始めとして、施設内感染リスクが生じる可能性がある部位の清掃強化、対面対策用のクリアパネル設置、出入口の消毒液設置、マスク等注意喚起の張紙、三密回避のためのトイレ待機表示や座席隣接禁止表示、ソーシャルディスタンス確保表示等を行っています。また、行政機関等と連携として、COCOA推奨と啓発を積極的に行うとともに、愛知県が進める「安全・安心宣言施設」の登録を受けています。さらに、制度対策としては、施設独自の「COVID-19感染防止ガイドライン」を展示場としていち早く策定し、Aichi Sky ExpoのWEBサイト上で公表しました。また、ガイドラインに合わせて感染予防対策運用の手引きを策定し、イベントの現場において主催者がすべき対策をより具体的に示しています。加えて、感染事案が発生した場合に備え、地域の医療機関や保健所との連携体制を構築しています。

・各種団体からの寄贈等

Aichi Sky Expoの運営には地域の皆様からも応援をいただいております。2019年度中には、以下（敬称略）の寄贈等がありました。

2019年7月 常滑焼タイルアート（常滑商工会議所青年部）

8月 車椅子（常滑ロータリークラブ、常滑ライオンズクラブ）、三州瓦鬼瓦オブジェ（愛知県陶器瓦工業組合）

12月 車椅子（名古屋東南ロータリークラブ）



常滑焼タイルアート

